

MfG_J_kanji_settaya

デザインとしての漢字ストーリー を 集約
摂田屋の書・星野本店扉・森清範師、中川一政画伯ストーリー

1. 星野本店の三階蔵案内

摂田屋商家の当主らに中国の学問を教えたのは誰か

2. 森清範師

3. 中川一政画伯

4. サフラン酒、新井石禅師の書

離れの書、定正院の墓石「涅槃臺」

日本の文字文化・漢字文化ストーリーの

5. デザインとしての漢字の再編集

1. 星野本店の三階蔵案内

星野本店さんのガイドの場所は、店舗内と会議室、三階蔵の3か所になります。三階蔵では、壁の9層構造と室内の説明で終わりがちですが、それだけでは、もったいない気がします。

もうひとつ、蔵の一階の部屋扉の文字についても、紹介できると思います。

石造りの冠木門から入る構造の蔵の入り口の、重い部屋扉の左隅に、明治十五年の文字が見え、当初の二階建土蔵の新築当時の揮毫と思われます。中国の古い文書からの引用句で、明治の初期、このように、中国の古典から語句を引用し、家訓とする文化が残っていたことを、説明できたらと、思います。

孝弟為基
恭黙為本
畏怯為務
勤儉為法

左スミに明治十五年の
文字が見える



蔵の一階の
部屋扉の文字

孝弟為基
恭黙為本
畏怯為務
勤儉為法

語句の出典調査

<https://www.kanripo.org/text/KR3k0055/299>

欽定四庫全書

欽定淵鑑類 函卷二百九十四

欽定四庫全書

御製淵鑑類の函序に、皇帝の記載する序があり、康熙四十九年（1710年）十月二十五日作成の欽定四庫全書、哲学書の集大成のなかにあるとされる。

[299-8a]

玳家訓曰夫門第高者一事墜先訓則異他人門高則自驕族盛則人窺嫉實藝懿行人未必信纖瑕微累十手争指矣所以脩己不得不至為學不得不堅予聞先公僕射言立己以**孝弟為基恭黙為本畏怯為務勤儉為法**居家以忍順保交以簡恭廣記如不及求名如儻來莅官則潔己省事而後可以言家法家法備而後可以言養人董生有云弔者在門賀者在閭言憂則恐懼恐懼則福至又曰賀者在門弔者在閭言受福則驕奢

論語にも、『有子曰、其人為也孝弟(其の人と為りや孝弟にして)』とあるようです。

孝弟とは、親兄弟を大切に、ということです。

商人の本分を守って一生懸命仕事をし、儉約に励みなさい、と読めます。

摂田屋商家の当主らに中国の学問を教えたのは誰か

摂田屋の星野本店の土蔵扉の「孝弟為基・・・」の漢文、同じく摂田屋の機那サフラン酒の罎絵に込められた中国思想、そうとう高い教養がもとになっているはずと、考えておりました。そして、これらを摂田屋の商家の当主らに教えたのは誰か、ずっと気になっておりました。

ところが、長岡郷土史第11号 1972の塚田正之助氏「大道校と殿町の塾と囂外鬻」の木曾恵禅の項で、『文化十二年(1815)十一月二十九日、西蒲原郡砂子塚村長宗寺清水恵亮の二男に生まれて庭訓をうけ、十才のとき同郡熊之森の竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、二年後の天保元年(1331)二月には鈴木文台から経義および史学を学んだ。・・・』

布教するには演説がもつとも手っとり早く、効果的なところから、彼は、明治十一年、僧侶の子弟を集めてこれを練習させ、長岡を中心に見附・今町・摂田屋の寺院で演説会を開き、あるいは、同十四年、長岡警察署の委嘱で栃尾や魚沼地方に巡回講演を・・・』との説明がありました。

木曾恵禅師は、竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、長善館館主の鈴木文台から経義および史学を学んだ、とあり、漢書を学び、中国の古典思想にも親しんだと想像されます。

これらより、もしかしたら、摂田屋の商家の当主らに教えたのは木曾恵禅師かも知れないと考えました。恵禅師なら納得で、個人的には「大発見」でした。

この文言は、四庫全書の原文、諸子百家・琅嬛集以外に、ネットでは検索されない文言のようです。恵禅師自身が探さなくても、当時の碩学の人々が中国の古書を渉猟し、同学の士に伝え、広がっていく、な風土が越後を含む国内にあったとしても驚きです。近江商人の「勤勉・儉約・正直・堅実」にも似ており、その由来なのかも知れず、興味が尽きません。



諸子百家・琅嬛集

2. 『極上吉乃川』は、今年の一文字を揮毫される清水寺貫主 森清範様によるもの

森清範(もりせいはん、1940年(昭和15年)7月8日 -)
1988年(昭和63年)4月、清水寺貫主(住職)、北法相宗管長就任。
また、1995年(平成7年)より始まった
財団法人日本漢字能力検定協会が主催する「今年の漢字」に
おいて、公募で選ばれたその年を表す一文字の漢字を
清水寺の舞台上で揮毫していることでも知られている。



『極上吉乃川』において、2014年7月、全面的なリニューアル。
使用する酒造好適米を全て契約栽培米に切り替えたほか、純米吟醸や純米大吟醸は、
新潟の産んだ大吟醸用の酒米『越淡麗』に切り替えています。
また、瓶のUVカット化も推進。

極上吉之川の文字

今年の一文字を揮毫される清水寺貫主

森清範様によるもの。柔らかさの中にも力強さを秘める字体は、極上吉乃

川の酒質や特徴を見事に表現

北法相宗管長。財団法人日本漢字能力検定協会が主催する「今年の漢字」において、その年を表す一文字の漢字を揮毫していることでも知られています。

森清範さんの師の大西良慶和上

仕込水の名水「天下甘露泉」の名付け親であり、

碑文の揮毫は、を仕込水天下甘露泉

大西 良慶(おおにしりょうけい、1875年(明治8年)

12月21日 - 1983年(昭和58年)2月15日)は、京都清水寺の貫主を務め、その晩年は日本の長寿記録保持者としても有名であった北法相宗の僧である

1976年、鹿児島県に生まれて話題となった日本初の五つ子の名付け親としても有名である。

1983年、107歳で天寿を全うした。当時の男性長寿日本一でもあった。

日露戦争で従軍僧として出征した後、日中仏教交流の道を開き平和運動に尽力したほか仏教界の要職を歴任。

大西良慶は奈良県生まれ、号は「無隠」。奈良の興福寺に入り、法隆寺などで学んだあと、京都・清水寺貫主を長く務めた。良慶節と呼ばれる独特の説法を清水寺で朝六時から開いていた。

以下は、大西良慶和上を最もよく知る人物のひとり、森清範貫主のお話。

「若い頃、なかなか上手にならないと言った私に、良慶和上は『すぐに上達するものではない。

ひと文字習えばひと文字が手に入ると思って、こつこつと励め』とおっしゃいました。

『習』という文字は重ねるという意味がありますが、手習いを繰り返し、紙を一枚一枚重ねていくようにして高みへ上がっていくものだと教えられたのです。」

森貫主が15歳で入門した当時、良慶和上は80歳。森貫主は「師匠というより、雲の上の存在。その場に来られると皆の背筋が張るような、凜とした方でした。」といひます。

3. 中川一政画伯 1893年(明治26年) - 1991年(平成3年)

星六さんの身内の方が、画伯と懇意の間柄だそうで、星六さんのシャッター、製品ラベルに画伯の書を楽しむことができます。

戦時中、伊豆に疎開し、その途中、真鶴に魅了されたとのことで、真鶴半島の西側の漁村「福浦」、「箱根駒ヶ岳」の風景の連作が特に知られています。神奈川の真鶴の港を二十年間毎日描きつづけたといわれています。

1975年 文化勲章を受章。

鈴木虎雄さん、堂本印象さんは1961年(昭和36年)文化勲章

堀口大學さんは1979年(昭和54年)に文化勲章



書も中川一政芸術の重要な分野の一つです。

自由闊達な画風や書で知られる八大山人や中国の画家の書、日本や中国の名僧の墨蹟などを勉強し、その基本をふまえた上での書とされています。

また日本や中国の古典文学の書物から、心に残った一節を書くことも多かったとされています。



「画壇の三筆」というタイトルで、熊谷守一・高村光太郎・中川一政の世界展が、2021年10～11月、富山県水墨美術館で開催されました。

2021年10月8日(金曜日)～11月28日(日曜日) 明治・大正・昭和へと連なる日本の近代美術の展開のなかで、ほぼ同時代を生きた三人の芸術家で、その書にはそれぞれの芸術観がよくあらわれているとされます。

特に、中川一政の書が、気に入りに、帰りにショップで「百花繚乱」の絵葉書を購入しました。

白山市立松任中川一政記念美術館